

1983 年当時 30 歳の私は、国立がんセンター病理部で、後に総長まで上り詰めた故廣橋説雄先生に師事した。実験に明け暮れ、廣橋先生とは毎晩夕食をともし、終電で銀座のお姉さまたちの甘い香りに噓せ返りながら家路についた。その甲斐あって辿り着いた初の英語論文が、学位論文となった。先生からは論文の構成にはじまって、定型文、図表の書き方、索引の選び方まで叩き込まれた。論文とは「目的」を明示し、それに対する「結果」を記すに尽きることを知った。その後、和文論文の経験がないと素人の私に、総説依頼が舞い込んだ。見様見真似で書き上げた総説を、こともあろうに病理部長の下里幸雄先生に読まれてしまった。当時の下里先生はがんセンターの「憲兵」と恐れられていた厳しいお方。目を通すなり、第一声が「文語体で書けば格調が上がるといったら大間違い!」「…にて、だの、…おいて、だの使うんじゃない!」であった。以来、私はなるべく平易な文章を心がけている。

その後、母校の外科学教室に帰室し、ある光景を目にした。忙しい土曜の午後、データを手にした部下の傍らで、ご自身がコンピューター(当初はタイプライター)に向かう恩師故久保田哲朗先生の姿である。部下とディスカッションしながら、その場で久保田先生はスラスラと論文を書き上げていった。まさに神業。レジデントの中には自分の英語論文を訳せないご仁もいたという過保護ぶり、先生は 100 篇を超える学位論文を指導した。私は残念ながら指導者として、どの師匠にも追いつくことができなかった。ただ、編集委員歴こそ長いので、偉そうに御託を並べることには長けているかもしれない。

さて、世の中 IF や CI で論文の価値を争う時代となり、和文誌の意義はどうも薄れつつあるようにみえる。しかし、自国語で科学論文を書ける国は限られていて、ある種誇るべき文化である。的確な日本語で簡潔に論文を書き上げる能力を育むことは、我国の科学と文化の根幹に関わる重大事に違いない。最後に下里先生の「我々が一生に経験できる症例は限られている。だから、症例報告を読んで経験を積むのだ。症例報告を馬鹿にするなよ。」という言葉思い出した。

(渡邊昌彦)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 25 巻 第 2 号) 2020 年 3 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1 部) 定価: 本体 2,800 円 + 税

2020 年 年間購読料: 16,380 円 + 税 * 学会員は学会ホームページから閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp (担当: 池田, 平澤, 渡部)

http://www.jses.or.jp

発 売: (株)医学書院 (代表: 金原 俊) (本誌担当: 水野, 安部)

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

電子出版コード 260F2600025002000000

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・JCOPY (株)出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

●症例報告

直腸憩室炎による膀胱瘻に対する腹腔鏡下根治術の

1 例濱田朗子・他 宮崎大学外科学講座消化管・内分泌・小児外科学
受傷当日に緊急で腹腔鏡下修復術を行った外傷性腹壁ヘルニアの

1 例福岡裕貴・他 国立病院機構神戸医療センター外科
下行結腸粘膜下腫瘍に対し腹腔鏡下漿膜筋層切開法にて腫瘍切除を

行った 1 例尾花優一・他 メディカルトピア草加病院外科
直腸癌術後局所再発との鑑別を要し腹腔鏡下手術を施行した

implantation cyst の 1 例高津史明・他 香川県立中央病院消化器・一般外科
横隔膜上食道憩室に対して腹臥位で胸腔鏡下食道憩室切除

術を施行した 1 例秋元俊亮・他 東京慈恵会医科大学外科学講座消化器外科
子宮内容除去時の子宮穿孔に伴う絞扼性腸閉塞に対し腹腔鏡下に修復しえ

た 1 例藤原淑恵・他 済生会横浜市南部病院外科
洗剤誤飲長期経過後に難治性食道狭窄をきたした腐食性食道炎に対し腹腔鏡・

胸腔鏡下に切除再建術を行った 1 例田邊麗子・他 小倉医療センター外科
術中 ICG 蛍光法が有用であった肝細胞癌腹膜播種の 1 例本庄真彦・他 愛媛大学医学部肝胆脾乳腺外科学

正中腹壁瘢痕ヘルニアに対する endoscopic component separation

法を併施した IPOM-plus の有用性市川英孝・他 東北大学大学院消化器外科学
Treitz 靱帯近傍 GIST に対し完全腹腔鏡下で切除・再建を施行し

た 2 例松田直樹・他 香川県立中央病院消化器・一般外科

●手術手技

ロボット支援下幽門保存胃切除術における体腔内手縫い胃々吻合清水芳政・他 水戸赤十字病院外科

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。